



リンゴとてんさい糖で作ったリンゴ酵素の中にサツマイモをいれ、エキスを抽出したシロップです。使用しているサツマイモは滋賀県湖南市で空中栽培によって作られました。添加物を使用していないので、小さなお子様からお年寄りまで安心してお召し上がりいただけます。

お召し上がり方

牛乳やヨーグルトに混ぜたり、パンにつけたり、お料理やお菓子作りの甘味にも使用できます。後味がさっぱりしていて甘すぎないので、色々な物にかけたり混ぜたりしてお召し上がりください。

容量 200ml

お問い合わせはこちら

こなんイモ・夢づくり協議会

〒520-3107 滋賀県湖南市石部東二丁目1番36号

電話/FAX 0748-76-3792 / ✉ konan.citizen.energy.project@gmail.com

空中栽培方式から産まれた サツマイモシロップ

いもつぶ

このシロップを口にした瞬間「イケるー」と声を上げた。甘さはほどよく、ほんのりしたサツマイモ味とベースのリンゴ味によって、泥臭い活動の協議会には似合わぬスマートな仕上がりとなった。

湖南省で、近畿大学・鈴木教授による「イモが日本を救う！」という講演会が開かれた。

サツマイモを「空中栽培」方式で大量に作り、そのイモを発酵させメタンガスを収集し小規模分散型のイモ発電を行うというものだ。

太陽光パネルを使った「市民共同発電所」運動で一定の成果を得てはいたが、ハンディのある人達の参加がなされていない現状を課題としていたメンバーが飛び上がった。

これなら知的障がいのある人や認知症を抱えるお年寄りの作業がいくつもある。栽培用の腐葉土づくり、袋への土入れ、栽培協力団体への袋の運搬、

イモ苗の植え付け、水やり、袋からの収穫、収穫したイモの運搬……構想は即座にまとまった。

5年目を迎えた2019年度は市内47か所で約2,000袋が栽培された。保育所、小学校、高齢者や障がい者の施設、事業所、まちづくりセンター、市役所、地域企業、引きこもりの若者を支えるグループ等に置かれた棚に、緑々とした葉っぱが茂った。

地球に負荷を掛けないイモ発電はまだ実験段階だが、



ハンディを抱える人達が「地球温暖化防止」(CO2の削減)の担い手になったことは画期的であった。

またそれらの人達と市民や農業者、企業や行政関係者が一緒に取り組む様子は、まさに「共に支え合うまちづくり」そのものであり、我が湖南省の誇りである。

是非、こんな物語から産まれた「いもつぶ」を「賞味あれ！」

こなんイモ・夢づくり協議会

